

朝日山だより



～平成27年度

N氏の成人式～

社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホーム ひまわり・こすもす

ヒューマンサポート タッチ・佐賀県発達障がい者支援センター結

〒841-0073

佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

FAX (0942) 84-3286

E-Mail : asahiyaama@grace.ocn.ne.jp

『新年を迎えるにあたり』

朝日山学園 施設長 高取正憲

平成26年度は障害者総合支援法におけるグループホーム、ケアホームの一元化、重度訪問介護の対象拡大、障害程度区分から障害支援区分への移行などが施行されました。グループホームは全ての介護をグ



ープホームで行う介護サービス包括型と委託契約した居宅介護事業所のホームヘルパーが介護を行う外部サービス利用型のどちらかを事業所が選択することとなりましたが、個人単位の居宅介護等の利用に係る経過措置があり、当法人のグループホームに於いては、大きく生活の質を落とすことなく進めていくことができました。この経過措置は3年間延長されるようですのでその間に体制作りを進めて行きたいと思います。

障害支援区分への移行に関してはまだ全ての利用者が移行された訳ではありませんが、障害程度区分から区分が大きく下がって判定されることは無く今のところ安心しています。

障害者総合支援法の附帯決議にある「小規模入所施設」という言葉は障害福祉計画の中で「地域生活支援拠点等の整備」という形で拳がっています。これは居住支援と地域支援の機能を一体的に整備しようというものです。相談、体験の機会や場所としての機能、緊急時の受け入れ、対応、人材の確保や要請、連携、地域の体制づくりが入っており、地域で重度・高齢の障害者が生活し続ける為にとっても重要になってくるものだと感じています。

昨年度に引き続き、あさひ会としては27年度もグループホームの新設とそれに伴う支援体制の確立を目指して取り組んで行きたいと思います。

利用者の高齢化、重度化を見据え、それぞれの障害特性に応じた環境を提供できるようにアイデアを出し合って進めて行きたいと思います。また、地域の障害を有された方々が緊急で支援が必要になった時にも安心して利用して頂けるような機能を持たせたいと思います。

今年度も朝日山学園を支えて頂いております皆さまからの益々のご指導とご協力をお願い致します。

☆これからの支援について・・・

『廃品回収を通して見えてきた課題と今後の目標』

朝日山学園 生活支援主任 松田浩平

現在、朝日山学園では、地域の会社、病院、学校、コンビニ、商店、個人宅などを回ってアルミ缶、ペットボトル、段ボール、発砲スチロール、古紙などを回収する仕事をスタッフと利用者の方々と共に行っています。

また、回収した物をリサイクルに向けて、利用者の皆さんのお仕事として提供させてもらっています。

例えば・・・ペットボトルの中身を捨てる、洗う、ラベルを剥がし易い様にペットボトルのラベルに切り込みを入れる、ラベルをはがす、アルミ缶を潰す、廃品として廃品場に出しに行く等の工程があります。これは朝日山学園の利用者にとってとても大事なお仕事であります。

廃品回収に於いても分業制で取り組みます。運搬、積み込み、積み下ろし等、それぞれに合った方法で利用者の方々も積極的に取り組んでいます。



リサイクルの作業に取り組む中で課題も見えてきました。それぞれの

特性に配慮し、分担しながら役割をもって一つの作業を完成させることとして取り組んでいます。その為にも作業環境や工程を整理し、皆さんが自立して取り組めるようにする事が現在の課題ではないかと考えます。

課題もあれば、目指す事もあります。リサイクル作業を通して地域で活動する機会が出来ています。その中で、利用者の方と地域の方達が交流を深め、お互いに隔たりのない環境を作っていけたらという事が私たちの思いです。ある利用者の方は会社の回収が終わると、その会社の事務所に笑顔で向かいます。その笑顔の先には、社員さんが事務所からおいしいお水を渡して「お疲れ様でした」と声をかけてくれる事があります。利用者の方にとって廃品回収は楽しみの機会にもなっているのです。これからも支援者として利用者の方々が廃品回収と通じて地域で暮らしていける環境づくりを行っていきたいと思っています。

『A氏の支援を通しての課題と目標』

朝日山学園 生活支援員 矢羽多勇氣

2年前の学園での生活では、買い物や運動の時間、作業の時間、帰宅する時間等、細かなスケジュールに沿って活動に取り組んでいました。しかし、ある時からスケジュール沿えず時間にずれが生じたり、帰宅の時間が遅くなったり、作業が雑になることが度々見られるようになりました。原因として、一日のスケジュール、作業のマナー化があると考え、作業の回数や1回で行う量を調整したり、運動の時間や買い物の時間、お仕事の



時間の調整を行いました。しかし、現状は変わることはありませんでした。そこで感じた事は「A氏の思いに基いたスケジュールを考えていたのだろうか。」です。A氏は休憩時間に自宅から持ってこられたビデオテープやテレビ番組を観て過ごしています。この観賞に集中してしまい、休憩時間が終わり次の活動の時間になってもやめる事ができず活動の時間に遅れる事がわかりました。また、一日の中で本氏が『どうしても動けない時間』と言うのがある事に気付きました。テレビを観る、ビデオを観るという事ができる環境がある以上、その時間を保証せず、活動を優先させていく事は本氏の焦りに繋がり、結果、スケジュールに遅れが出たり、本氏にとってマイナスな状況を作り出してしまう恐れがあります。そこで、現在の生活パターンのデータを収集し、スケジュールそのものを見直しました。このことにより、時間の遅れは3~5分ほどありますが以前より改善されました。同時に作業に関しても新しい作業を導入し取り組んでいます。新しい作業では、支援員側の物の捉え方や見え方、A氏の捉え方、見え方に違いがあり、新しい発見となりました。

今現在も、テレビ・ビデオ観賞の影響で月に1から2回ほど帰宅の時間が大幅に遅れる事があり、テレビやビデオの件は現状の課題であると感じています。その為にも本氏の思いは保証しつつ、休憩のルール作りを行い、ルールの中で作業と休憩のバランスを取りながら新しい作業への挑戦や本氏の可能性の拡充に努めていきたいと考えています。

『グループホームでの課題と目標』

グループホームひまわり世話人 竹内宏明

グループホームこすもす世話人 江藤敬一

グループホームでは昨年度より避難訓練を始めました。それまでは日中活動の場である朝日山学園での避難訓練を経験している以外は、長年

グループホームでの有事を想定した訓練が実施出来ていない現状でした。医療施設や福祉施設における痛ましい火災事故も現実起きています。ひまわり・こすもすの2棟のグループホームでも有事の際に、いかに入居者の方々に無事に避難して頂くかが課題です。

グループホームひまわりには視覚障がいや有する方や脊椎損傷で歩行に配慮が必要な方が入居されています。グループホームこすもすは自閉症を有される方が入居されており、それぞれのグループホームで誘導の順番や避難経路をどうするのか、またグループホームこすもすでは避難することを視覚的な情報としてどう提示するかといった課題も挙がりました。



訓練当日は台所での火災を想定し各居室・リビングにおられる入居者の方々に宿直者、ヘルパーの2名で玄関外、または駐車場に停めている送迎車まで誘導しました。各グループホームには4名の入居者がおられる為、1名のスタッフで2名の利用者を誘導する対応になりました。また非常ベルを鳴らしてから避難が完了するまでの時間を防火管理者が計測しました。訓練では各グループホーム共に陽の落ちない時間帯に実施し、比較的スムーズな誘導が出来ていました。



グループホームでの利用時間を考えた時に深夜帯に火災が起こるケースも想定しておかなければいけません。しかし現状ではどのような状況になるのか想像もつきません。各グループホームには宿直補佐として夜間の見守りを主としたアルバイトの方が

勤務し、夜間も2名体制で支援を行っています。入居者の方が休まれている時間帯に勤務している為、入居者と宿直補佐が直接関わる場面もありませんでした。しかし緊急時に見ず知らずの人が出てきて誘導しようとしても入居者が驚き動けなくなる可能性や、宿直補佐もどのように入居者に対応して良いか戸惑う可能性も高いと思われます。その為、入居者に宿直補佐の方を紹介し、宿直補佐にも夜間のトイレ介助などサポートして頂くようにしながら、入居者との繋がりを持ってもらおうという方向で進めています。

グループホームひまわりでは実際に紹介すると動きが固まる方もいました。グループホームこすもすでは掲示板にその日の支援に関わる宿直者、ヘルパー、宿直補佐の顔写真を提示することで、入居者の方にお知らせをしています。各ホームとも焦らずゆっくりと双方が理解を深めていけるようにし、グループホームに関わる全てのスタッフが協力して入居者の方々が安心して暮らせるホーム作りをしていきたいと思っています。

☆あさひやまリレー

『仕事に対する思い、目標』

朝日山学園 生活支援員 稲富 敏之

朝日山学園で仕事を始めて、今年で三年目を迎えます。その間、諸先輩方、保護者の皆様方には、たくさんの激励、アドバイス等々頂き、頑張ってきた事ができました。ひとつ一つの言葉の中に、道なき道を切り開いてこられたご苦勞の跡が痛いほど感じられ、日々精進せねばと自らを鼓舞する毎日です。



本年も、常に自分が接する利用者の方の秘めた可能性を発見できる様に、「これが当たり前」という思い込みを廃し、ひとつでも多く新しい発見ができればと考えています。

私の日中の業務として、主に利用者の方々との散歩、廃品回収、ドライブ等学園の外での活動が多いのですが、以前は目的地に着いても降車出来なかった方が、今では笑顔で意気揚々と降りられるようになりました。その背景には、先の見通しが立たない不安や日頃の関わり方等の要因があり、その方と積極的に関わる事で、少しずつ溝が埋まっていく事に気付かされました。トイレの誘導も「トイレに行きます」ではなく、「トイレに行って、廃品回収に行きましょう」だとスムーズに行けたりします。私自身が、利用者の側に立った支援を心掛けていこうと決意しました。その為には、保護者の方や先輩の貴重な経験やご意見を伺う事が大切だと思います。保護者の方々に送迎等でお会いした折には、お話をお聞きする事が増えるかもしれませんが、どうかよろしくお願ひします。日々、感謝の心を忘れず、利用者の皆さまと一緒に成長していきたいと思ひます。

☆行事報告・クリスマス会

『平成26年度 朝日山学園 クリスマス会報告』

朝日山学園 生活支援員 田中大輔

昨年の12月19日(金)にクリスマス会を開催いたしました。日頃からお世話になっている方々をお招きし、楽しいひと時を過ごしていただきました。この会に向けて学園スタッフ全員で話し合いを重ね、外部イベント招待やゲーム・利用者発表会な



どを行い、見たり、参加したりと全員に楽しんでもらう事を意識し、計画、実施いたしました。

外部イベントは、ボランティア団体「さくら会」に来ていただき、人情劇やマジック等の出し物をしていただきました。今回は日頃あまり見る機会のないものばかりで利用者の方は驚かれたり、笑顔が見られたりと様々な反応でした。視覚的なものであり、よりわかりやすく楽しめたのではないかと思います。

ゲームは、「みかん渡しゲーム」を行いました。お玉を使用してみかんを渡していく競技で、全員参加のチーム対抗戦でした。渡す際に、慎重にされる方や大胆に素早く渡される方等様々で、僅差や逆転ありの戦いが続き盛り上がりました。また、今回も利用者発表会を実施いたしました。月1回の音楽活動の中で、この発表会に向けて練習を重ねてきました。今回は「ドレミのうた」でパートごとに分け、タンバリン、鈴、太鼓、ピアノを使用し楽器演奏を披露しました。保護者や来賓の方に日頃の活動の一部を見てもらう機会になり、みなさん緊張もあったと思いますが、とても良い機会になったと思います。日頃の練習の成果を発揮できていました。



最後は、サンタさんが登場し利用者の方にプレゼントを配布していきました。利用者の方に笑顔が見られ、思案して準備したスタッフも安心して終える事ができました。

次年度に向け、今回のクリスマス会の良い点を継続しつつ、参加者に楽しんでもらう事を第一に考えて計画・実施をしていきたいと考えています。今回の反省点も踏まえ、スタッフ全員で話し合いを重ね、よりよいクリスマス会になるように取り組んでいきます。

☆ボランティア募集しています

朝日山学園では日中、利用者の皆さんが楽しんで過ごしてもらえる活動のお手伝いをしていただける方を募集しています。利用者の方との散歩や作業のお手伝い、月に一度実施している料理教室などが主な活動です。特に料理教室では鳥栖市の市民文化会館で調理を行っています。よろしければ一度遊びに来てみませんか？連絡をお待ちしています。

(Tel0942-84-3266 係 橋口 まで)

◎寄付者ご芳名

平成26年8月～27年1月

寄付、物品寄付

青田 陽子 様 岩橋 勝政 様 内田 孝喜 様 大庭 ヒフミ 様

小川 奈美子 様 於保 定夫 様 古賀 麻男 様 古賀 由美子 様

斉藤 房子 様 鈴木 洋二 様 田中 洋子 様 床島 正志 様

友永 豪 様 林 良子 様 原口 敏子 様 前田 裕子 様

松尾 初子 様 山田 修 様 山本 立夫 様 浅井簡易郵便局 様

上田歯科医院 様 西清寺 様 佐賀カントリー倶楽部チャリティゴルフ

大会参加者有志一同 様 上田歯科医院の募金箱に募金頂いた皆様

クリスマス会

寄付、物品寄付

愛甲 強 様 天本 剛 様 大坪 稔 様 岡 勝昭 様 林 良子 様

岡村 國助 様 小川 裕美子 様 上尾 恭之介 様 木下 真治 様

桑原 美智子 様 権藤 ツヤ子 様 齋藤 友幸 様 眞田 武彦 様

豊増 スミ子 様 西久保 正子 様 野田 皓一 様 橋本 イツヨ 様

平井 朝子 様 廣重 新興 様 廣瀬 耕三郎 様 福島 一雄 様
古澤 文雄 様 あとりえ・まつもと松本 知子 様
医療法人野田内科理事長 野田 芳隆 様
鳥栖プロパン株式会社代表取締役 野田 哲郎 様
原武登記測量事務所 様

▣編集後記

今回の『朝日山だより43号』は目標と課題にスポットを当ててみました。私の好きな言葉に、横浜高校野球部監督の渡辺元智氏が指導の際によく用いる言葉があります。『富士山に登る第一歩。三笠山に登る第一歩。同じ一歩でも覚悟が違ふ。どこまで登るつもりか。目標がその日その日を支配する』この言葉の『目標がその日その日を支配する』という一説に凄く感銘を受けています。目標を持つ事で一日をどう過ごすか。どんな一日であったか。見据えている水準の高さや目標設定を間違えば課題は見えてきません。利用者の方へ支援をする中で課題と直面する事は多く、その都度検討していく事が必要になります。その為にも目標立てて支援にあたる事は私たちの一日の始まりなのではないかと思ひます。

(菅)